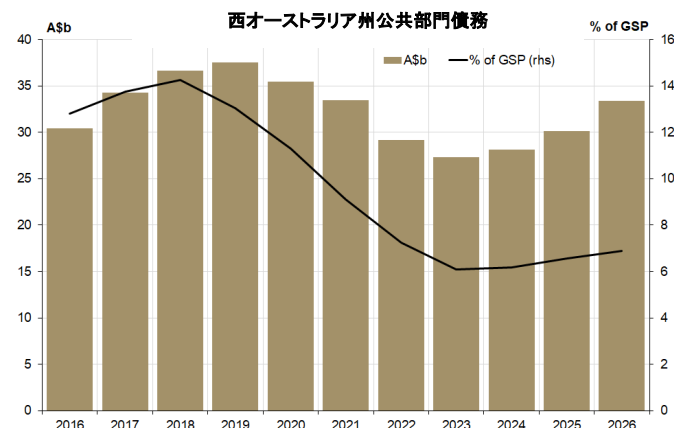
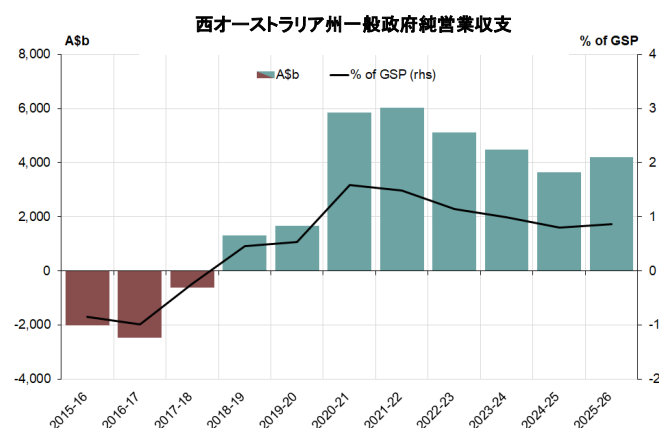


西オーストラリア州関連データハイライト

- オーストラリア準備銀行（RBA） は9月、政策金利を25 ベーシスポイント引き上げ、4.60%とした。
- 「2025-26 年度西オーストラリア州財政年次報告書」によると、42 億豪ドルの黒字、334 億豪ドルの純債務が報告された。
- パースの消費者物価指数（CPI） は8月に0.6%上昇し、年間インフレ率は4.3%となった。
- 西オーストラリア州の雇用者数は8月に1万2,500人増加したが、失業率は4.5%で横ばいとなった。
- 8月に西オーストラリア州の住宅建設許可件数が3.2%増加した後、9月のコタリティの住宅価格は1.2%下落した。
- 9月、WATC は2036年10月22日に満期を迎える、年率5.50%の新規固定利付債を22.5億豪ドルを発行した。

2025-26 年度 西オーストラリア州財政年次報告書

- 「2025-26 年度州財政年次報告書」は、西オーストラリア州政府の堅調な財政状況を実証し、最近「AAA」のまま据え置かれた信用格付けを裏付けるものとなった。西オーストラリア州は、引き続き S&P グローバルとムーディーズの両方から最高格付けを獲得している唯一の州である。
- 2025-26 年度、一般政府部門は42億豪ドル（州総生産の0.9%）の営業余剰を8年連続で計上し、これは2026年5月に公表された2026-27年度予算の推定実績値を6億8,400万豪ドル上回った。余剰幅が拡大したのは、歳入が予想を上回り、歳出が予想を下回ったことによるものである。
- 一般政府の歳入は予想を1億1,300万豪ドル上回った。これは主に、保険委員会（Insurance Commission）、西オーストラリア州政府の中央土地開発庁（DevelopmentWA）、ウォーター・コーポレーション（Water Corporation）などの公営企業からの追加歳入に加え、人口増加を背景とした各機関による物品・サービスの販売増によるものである。これらの増収分は、GSTを除く連邦政府からの交付金が予想を下回ったことや、ロイヤリティおよび税収がわずかに減少したことにより、一部相殺された。
- 一般政府の支出は予想より5億7,100万豪ドル少なく、これには交通および主要インフラへの支出減少が含まれており、主に複数のプログラムにおける支出の時期調整を反映したものである。
- 2026年6月30日時点の公共部門の純債務総額は334億豪ドルで、2026-27年度予算の推計値を11億豪ドル下回り、当初の2025-26年度予算の予測値を56億豪ドル下回った。州総生産（GSP）に占める純債務の割合は、2017-18年度のピーク時の13.5%から、2025-26年度には推定6.9%まで低下した。
- 西オーストラリア州政府は、特に着実な人口増加を背景に、州経済の拡大と多角化を図るため、引き続き黒字を再投資している。その主な手段となるのが、優先インフラプロジェクトを推進する「資産投資プログラム」である。電力、水道、港湾インフラへの投資は経済成長と多角化を支え、住宅・土地開発、交通、学校、病院への投資は、人口増加のニーズに応える一助となっている。



出典：西オーストラリア州財務省

オーストラリア金利 (%)			外国為替と株式		
RBA 政策金利目標	4.60	(↑25 pt)	AUD/USD	0.6947	(↓3.1%)
90 日銀行手形	4.77	(↑22 pt)	AUD/JPY	109.35	(↓4.5%)
連邦政府 3 年国債	4.93	(↑27 pt)			
連邦政府 10 年国債	5.35	(↑26 pt)	ASX200	8789	(↓287 pt)

市場概況

- 9月の会合で、RBA 金融政策委員会は政策金利を 25 ベーシスポイント引き上げ、予想通り 15 年ぶりの高水準である 4.60%に引き上げた。RBA はさらなる利上げの可能性を排除していないが、9 月下旬には引き締め観測がやや後退した。市場では現在、今回の利上げサイクルであと 1 回だけ利上げが見込まれており、その時期も 2027 年第 1 四半期以降になると予想されている。
- 世界の他の国々と同様、9 月のオーストラリア国債の利回りは 2011 年以来の最高水準まで上昇した。WATC と連邦債利回りのスプレッドはわずかに拡大したが、他国と比較して依然として狭い水準にとどまっている。
- 追加の金融引き締めへの期待後退に加え、世界的な市場センチメントの悪化も相まって、9 月の豪ドルは米ドルに対して 3.1%、日本円に対して 4.5%下落した。
- 9 月のオーストラリア株式市場は 3.2%下落し、3 月以来初の前月比下落を記録した。RBA の金融引き締め政策の影響に対する懸念を背景に、一般消費財株や不動産株が下落を主導し、市場全体で広範な弱含みが見られた。

WATC 指標銘柄債券の利回り				
満期	利回り 2026 年 9 月 30 日		AGS スプレッド 2026 年 9 月 30 日	
2027 年 10 月 21 日	5.04	(↑27 pt)	+7 pt	(0 pt)
2028 年 7 月 20 日	5.11	(↑29 pt)	+15 pt	(↑2 pt)
2029 年 7 月 24 日	5.14	(↑30 pt)	+22 pt	(↑2 pt)
2030 年 10 月 22 日	5.20	(↑28 pt)	+26 pt	(↑2 pt)
2031 年 10 月 22 日	5.32	(↑30 pt)	+31 pt	(↑2 pt)
2032 年 7 月 21 日	5.38	(↑30 pt)	+34 pt	(↑4 pt)
2033 年 7 月 20 日*	5.49	(↑30 pt)	+38 pt	(↑5 pt)
2034 年 10 月 24 日	5.66	(↑32 pt)	+41 pt	(↑5 pt)
2035 年 10 月 24 日*	5.73	(↑31 pt)	+42 pt	(↑5 pt)
2036 年 10 月 22 日	5.82	(-)	+47 pt	(-)
2037 年 10 月 21 日	5.96	(↑31 pt)	+57 pt	(↑3 pt)
2039 年 10 月 24 日*	6.08	(↑28 pt)	+63 pt	(↑4 pt)
2041 年 7 月 23 日	6.17	(↑25 pt)	+66 pt	(↑5 pt)

*グリーンボンド。

